

球磨開発の横顔



盛り上げる集団桑園 造成への気運

球磨郡の養蚕が県計画の指向する新興養蚕団地の造成を軸として、最近目覚ましい発展を続けていることは一つの「話題」であり、それはまさに、本県養蚕振興の縮図ともいえるであろう。

まず最近の実績を見てみよう。現況を五年前——昭和三十六年に比較してみると、養蚕戸数において八五六戸で、一七％と増加の傾向が目立っており、これは全国的に零細養蚕家群の縮小を含めて、漸減傾向の中にあつて、極めて特異な現象である。

つぎに桑園の面積をみると、三、三九五畝に達し、これは実に二五五％の拡大急増傾向を示している。

養蚕戸数の伸びに比して、桑園の拡大傾向がはるかに大きいことは、今まで殆んど生産の対象としてかえりみられなかった雑木林、原野等の開発利用を含めて、新規に大規模集団桑園の造成傾向がきわめて活発であり、規模拡大への移行段階として、郡平均戸当り養蚕規模四〇畝と県平均を一〇％も上廻る結果となつてあらわれている。

とくに開拓地等を含む新興養蚕団地では、経営の大型養蚕専門的農家群が目立ち、昭和四十年において、一畝以上の桑園経営者は六〇戸、また個人で年間八

〇〇畝以上の多収種養蚕家は一六名を数えるに至っている。

以上から繭生産量も著しく増大し、昭和三十六年の一三四トに比べて昭和四十一年実績は二二五トとその増加率は一六六％となった。

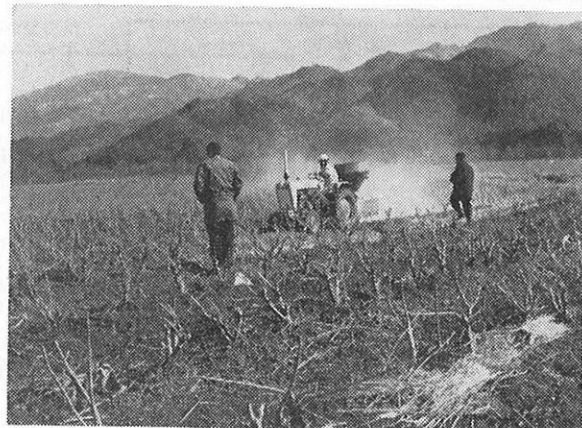
昨今、農業構造改善事業を含む水利計画や、圃場整備等の関連において、盆地帯の既成桑園中には、局部的に水田化現象も散見せられるが、郡内で人吉、免田、山江、岡原、上村の各市町村はとくに、集団桑園造成の気運が旺盛であり、今後の発展がとくに期待される地域である。

夢多い球磨の養蚕

球磨を訪れる人は、肥薩線東人吉駅から大畑に至る間東窓の左側にひろがる五〇畝に及ぶ見事な集団桑園の起伏、また人吉、錦、相良、免田を通ずる国道二一九号線沿いに、新立、新並木を中心とした中球磨団地四〇畝の桑園、木上、高原、川辺、免田、多良木等々……視界に映る整然とした集団桑園の新天地に、球磨盆地農業の新しい一つの進展を感じるであろう。

昭和三十五年以來造成された集団桑園は、延一三〇畝に達している。

農業構造改善事業において、養蚕を基幹科目として事業を完了又は実施中の市町村は、錦、山江、人吉、相良、中球磨の五市町村であり、その養蚕関係事業費は八、四〇〇万円に達し、養蚕経営構造



★桑園の害虫駆除も計画的に

の近代化促進に指導的役割を果しつつある。

球磨郡が年当初企画した今年の繭生産目標は二八〇トである。

桑園面積三三八・五畝のうち、植付一〜二年生の未成桑園の比重は、県下でも最も高く、四三・四％を占めており、また畑面積に対する桑園の割合は、未だ七・七％であり、今後の繭生産に大きな夢がかげられる。

ちなみに昭和五十年次における目標は、桑園七〇〇畝、産繭八七五ト、七億九、〇〇〇万円の生産額である。

(蚕糸課)

農薬をおそれよう!

- 身体の悪い人、手足に傷のある人等は作業に従事しないこと。
- 散布作業で中毒した人は、重い場合は治ってから1カ月間は作業に出ないこと。
- 連続して作業すると中毒する危険があるので同一人が連続して作業しないこと。
- 風向きを考え、常に身体を風上におくこと。
- 作業は日中はできるだけ、朝夕の時間を選ぼう。

農薬危害防止運動（5月15日～6月14日）